

# 樽前山

## 1 概況

7 月 6 日～7 日にかけて、高感度カメラによりドーム南西 (B) 噴気孔群が夜間明るく見える現象を観測しましたが、噴煙、地震、地殻変動などのデータに異常はありませんでした。

## 2 噴煙活動の状況

樽前山 (ドームの南南東 11.5km) に設置している高感度カメラで、6 日 20 時すぎから 7 日 03 時すぎまで B 噴気孔群が明るく見える現象を観測しました (苫小牧測候所からは目視で確認できませんでした)。B 噴気孔群では昨年春以降 300 ～ 400 と高温状態が続いており、周辺には多量の硫黄昇華物が認められることから、硫黄が自然発火して明るく見えたと推定されます。同様の現象は昨年 4 月にも観測されていますが、今回はそれに比べてかなり小規模で噴気活動の活発化も認められません。

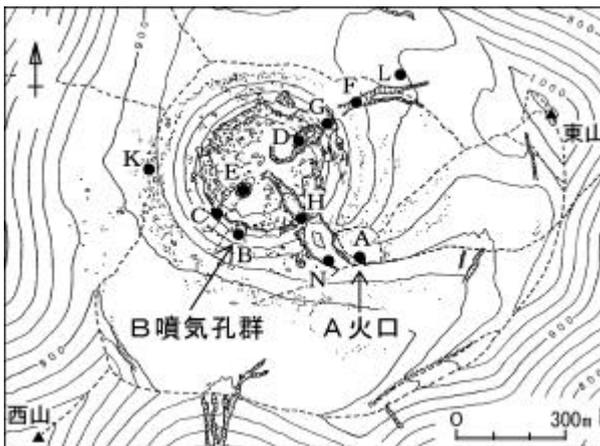
A 火口、B 噴気孔群および E 火口の噴煙はいずれも勢いが弱く、概ね 50m 以下で推移しました。



2003 年 7 月 6 日 20 時 47 分



2003 年 7 月 6 日 21 時 06 分 (加-ズ アップ)



樽前山ドーム周辺図



参考: 2002 年 4 月 27 日 19 時 34 分(加-ズ アップ)

明るく見える現象の比較: 上段の写真 2 枚は今年 7 月 6 日の画像、下段の写真は昨年 4 月 27 日の画像 (気象庁別々川高感度カメラ (ドームの南南東 11.5km) による)

### 3 地震活動の状況

地震回数は 1 日あたり 0~7 回で推移し、顕著な地震の増加はありませんでした。震源はほとんどが山頂火口原直下の浅いところ(海拔前後)と推定されます。火山性微動は観測されていません。

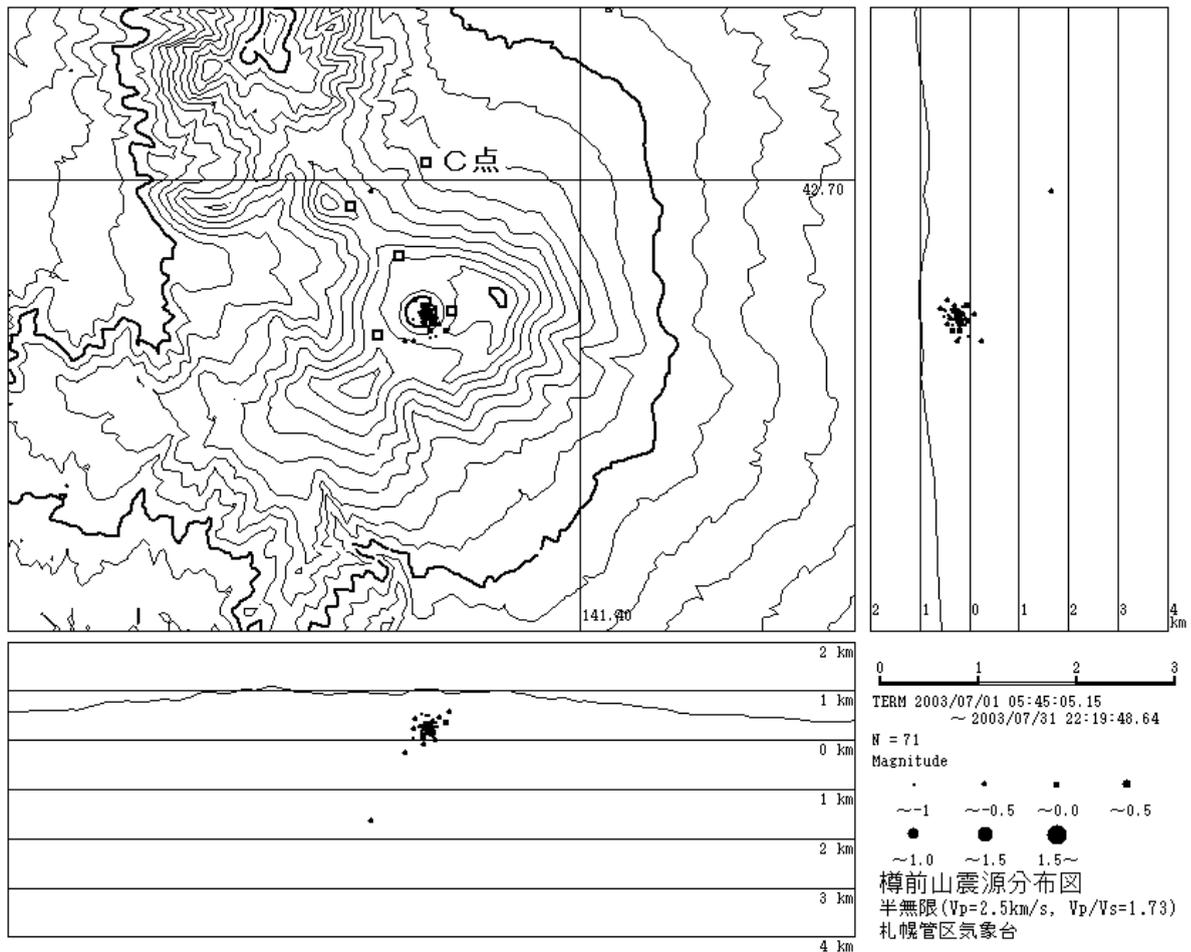
月別地震・微動回数(C点)

2002~2003年	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
地震回数	40	25	36	32	64	35	64	51	90	60	38	66
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

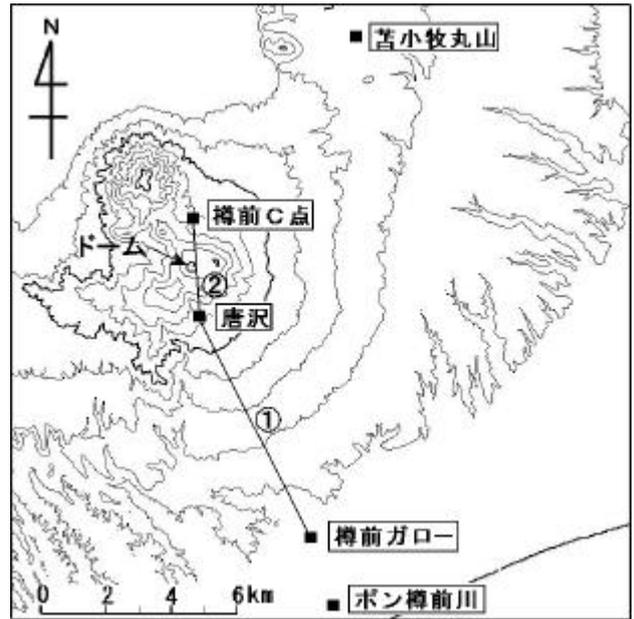
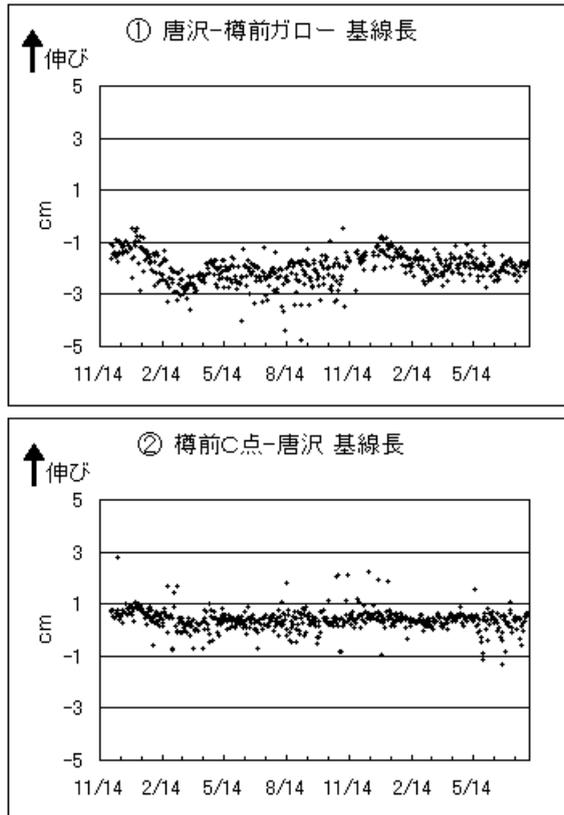
### 4 地殻変動の状況

G P S 観測で見られる基線長の変化は主に季節変動が原因と推定され、火山活動に起因すると考えられる変化はありません。

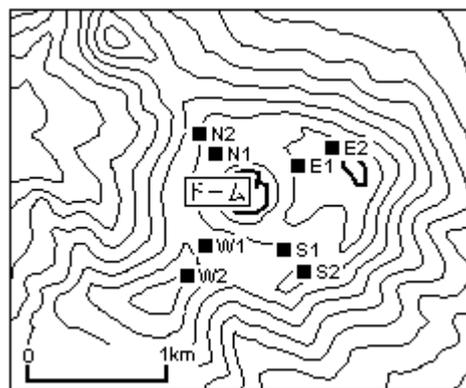
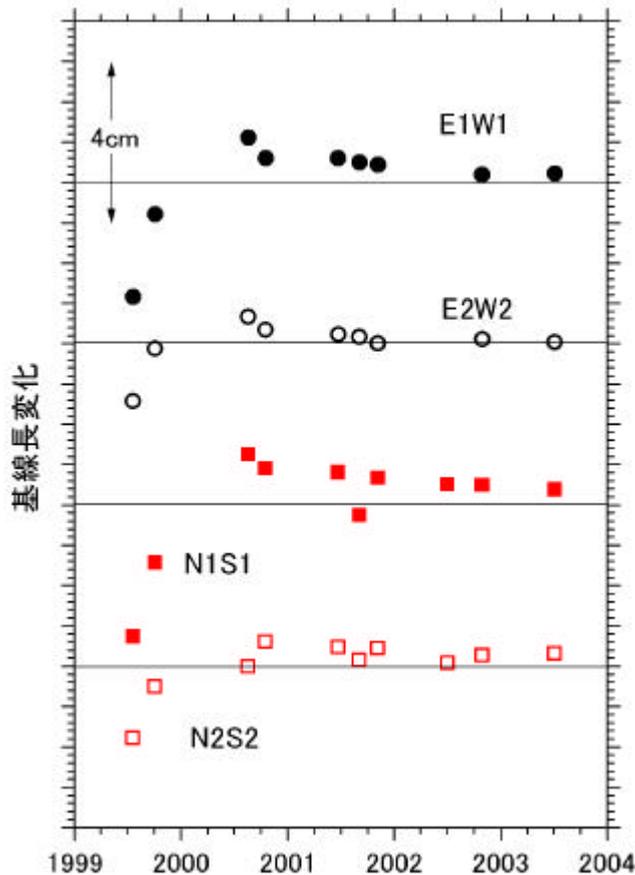
7 月 5~7 日に気象研究所が実施した山頂部の G P S 繰り返し観測によると、ドーム周辺で 1999~2000 年に見られた膨張はその後収縮に転じ、現在まで目立った変化はありません。



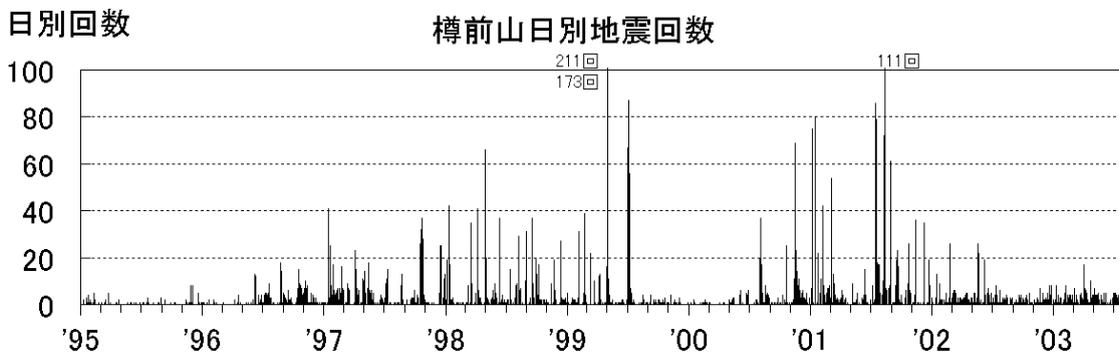
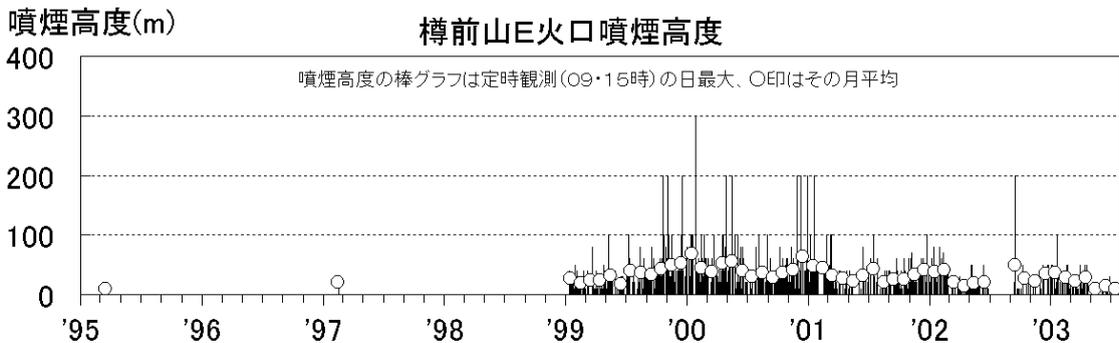
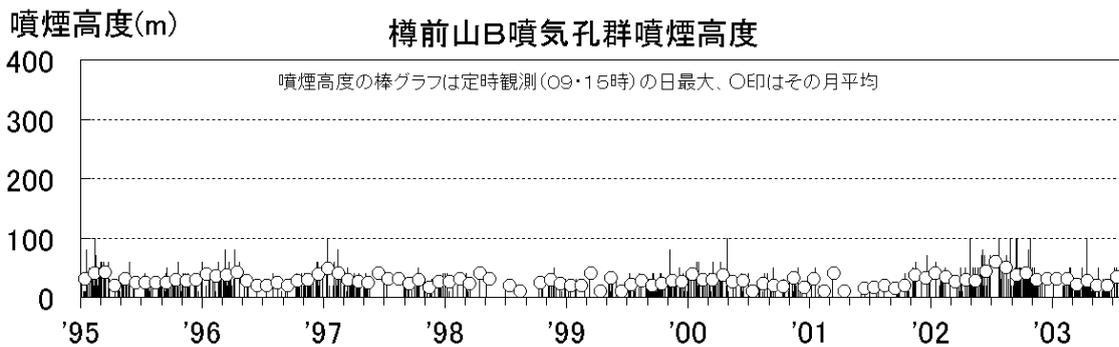
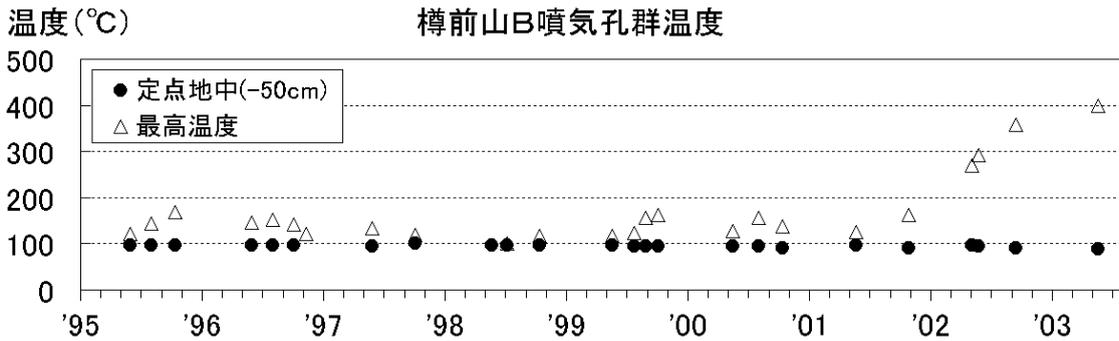
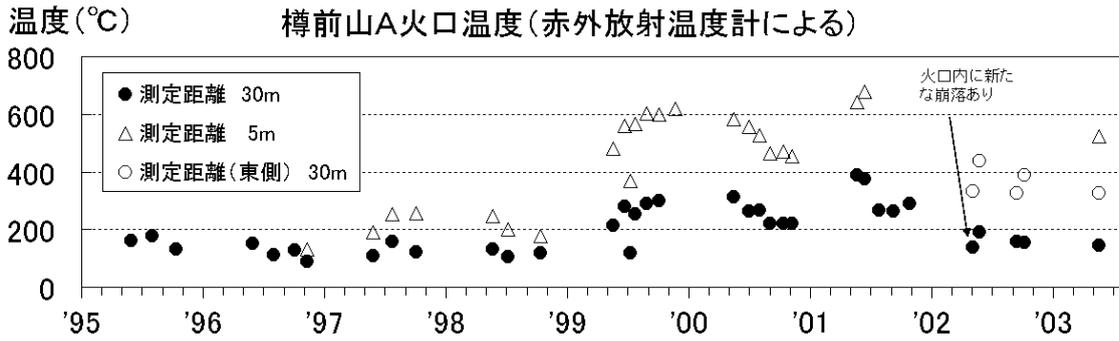
樽前山震源分布図 (2003 年 7 月 1 日 ~ 7 月 31 日) 印は地震計



樽前山基線長変化 (2001 年 11 月 14 日 ~ 2003 年 7 月 31 日)



気象研究所の GPS 繰り返し観測による  
山頂部の基線長変化  
(1999 年 ~ 2003 年)



樽前山火山活動経過図(日別、1995年1月1日~2003年7月31日)